

西川産業(株)日本睡眠科学研究所所長	古川 雅嗣 様	
(一社)日本ゴム工業会事務局長	青木 正己 様	
ウレタンフォーム工業会専務理事	大川 栄二 様	
(株)ブリヂストン加工品新事業開発室課長代理	中西 貴浩 様	
(株)ロマンス小杉マーケティング部 MD	竹内 伸一 様	
(一財)ボーケン品質評価機構開発部課長	坂井 史治 様	
(一社)日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良	中村 富夫
オブザーバー		
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所係長	大口 達郎 様	(*欠席)
(一財)ボーケン品質評価機構東京事業所主任	丸山 智生 様	

JBA 第 4 期業種別委員会：第十回ウレタン・敷部会議事録

記

1. 開催日時 平成 30 年 1 月 10 日 (水) 10:30 ~ 12:30
2. 開催場所 (一社)日本寝具寝装品協会
東京都中央区小舟町 7 - 2 小舟町 243 ビル 7F ☎03 - 6661 - 0213
3. 議題 (1) NITTA/住友理工式体圧分布 (色同調) データ等の検討について
(2) ユニチカガ - メンテック(株) 寝返り試験データについて
(3) ウレタンフォーム物性試験データについて
(4) 特性評価シート表示 (硬さ 5 段階表示等) について
(5) 他

議事録

奥谷専務：ウレタン・敷、まくら、ふとん類の自主表記表示ガイドラインを、早くは 4 月秋冬各展示会にて発表し、本格稼働は 2019 年春夏物からは業界浸透を図りたい。

議題 (1)

古川部会長：12 月 20 日ボーケン東京事務所で、住友理工測定器の実証した。12 月 13 日加圧データが未測定箇所があったが問題点判断はつかなかった。

丸山主任：住友理工測定器をニッタ測定器のカラースケールに同調させたが、両者少し見え方が違う。ニッタ式は硬めの樹脂シートで、住友理工式は柔らかめシートありキャリブレーションも違うので完璧同調は困難である。

古川部会長：R, G, B 色をいじる事は可能でも絶対値が違っているので完全は無理である。

青木委員：2 月までに表記表示の方向性を決めればよいのではないか。細部の技術面はその後修正でよいと思う。何 k g の重しを置き同色表現になるかのキャリブレーション調整をする必要はある。

奥谷専務：マット敷は、和タイプでは底敷は畳、フローアースとし、洋タイプではボンネルマットベースがよい。この条件下で簡単/安価/広汎で、そして消費者が判りやすい測定器使用でデータ取得をやってもらうことが基本である。

中西委員：上限値 110mm h g 設定は高い。介護では血行障害目安 30mm h g であるので低めにする必要がある。

丸山主任：ニッタ測定器の上限値を 80 か 60mm h g に下げることが可能である。

中西委員 : 各社測定器でのデータ同調は、感知測定法、セルへの加圧計算法等が違うので相互補完し、見た目差異はホームページ等で基準差明示していけばよい。ユニチカガ - メンテックでのニッタ、住友理工体圧分布データ頂戴すれば、差異表を作ります。また、セル個数差も久次米役員に聞いてみる。

丸山主任 : 上限値 80mmhg と 60mmhg の 2 パターンで同調表現をしてみる。

古川部会長 : 上記 3 項目を、中西委員と丸山主任に 1 月 24 日部会までにお問い合わせ致します。

議題 (2)

大川委員 : 沈み込み量が増えると回転軸がぶれてくる。寝返り試験データは有効性があると判断して、特許権者(株)東洋クオリティワンに 1 月 11 日面会するので、他試験機関等含めて使用可能か聞いてみる。

中西委員 : 寝返り試験データは相対評価なので比較対象品が必要である。

青木委員 : 従来一般品と改良品の優劣比較データとして使用するのがよい。

奥谷専務 : マネキン基準体 26kg の製作含めて関連先に問合せしてみる。

議題 (3)

大川委員 : 密度・硬さ・へたり・反発弾性等相互関連含めデータ分析を、来週までには各委員宛に事前検討資料としてメール配信致します。

議題 (4)

大川委員 : 積層タイプは D 法 25% 圧縮測定でよいのではないかと。

奥谷専務 : 1 枚物は A 法 40% 試験でよいが、積層タイプは D 法 25% 試験がよいと思う。

竹内委員 : A 法試験では柔らかい上層部が圧縮されて硬めにふれ硬め数値巾が 100~230N と広くなりすぎである。異素材の場合は分離表示するしかないのか。

大川委員 : 上層柔らかめ、中層硬め、下層柔らかめの材質表記ではだめなのか。

奥谷専務 : 材質表記だとプロファイル加工等によって硬さが変化してくる。

青木委員 : 圧縮でなく、荷重法がよいのではないかと。製品の硬さなら体圧分布データから抽出表記すれば事足りるのではないかと。

中西委員 : 家表法は寝具の硬さであり、JIS 試験は 50mm 厚さの材質データである。

奥谷専務 : 硬さ 5 段階表示は、柔らかめ・普通・やや硬め・硬め・超硬め とするか。

坂井委員 : 図表付記のラベル提案はどうか

	柔らかめ	普通	硬め		
上層部	★				
下層部				★	

丸山委員 : 家表法ラベルに各様表現は不可であるので、付記とし一線画して表記は可能。

大川委員 : 家表法ラベルは、硬め (150N) [両端 (柔らかめ 80N)、中央部 (硬め 180N)] の表記は可能である。積層タイプには JBA 硬さラベルを添付は可能である。

竹内委員 : 色々なラベル表記をすることは混乱を逆に招くことにならないか。現状使用ラベルも参考として次回はおみせしたい。

奥谷専務 : 次回部会までにマットレス・敷、まくら、ふとん類の自主表記フォーマットを作成し、統一ラベル案を検討頂きます。

古川部会長 : へたり、復元率表記はどうするのか含めて、UP データを検証して判断したい。1 月 24 日次回部会までに、各員検討事項整理して参加して頂きたい。 以上